

博士課程教育リーディングプログラム 平成25年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	千葉大学	申請大学長名	徳久 剛史
申請類型	オンリーワン型	プログラム責任者名	中谷 晴昭
整理番号	003	プログラムコーディネーター名	中山 俊憲
プログラム名	免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム		

＜プログラム進捗状況概要＞

1. プログラムの目的・大学の改革構想

① プログラムの目的

免疫疾患の中でもアレルギー疾患は、国民の約30%が罹患しているにも関わらず、対症療法がほとんどで患者にとってもまた医療経済上の観点からも有効な根治療法が強く求められている。自己免疫疾患も根治療法の開発には至っていない。また、癌は老化に伴う免疫力の低下により発症頻度が増加し、高齢化社会の進行に伴い今や国民の3人に1人の死亡原因となっており、良好なQOLの得られる低侵襲治療法の開発が急務である。更に、高齢者に多い動脈硬化による心血管疾患も免疫が関与する慢性炎症性疾患として捉えられるようになった。これらの疾患には「免疫システムの調節異常によって発症する」という共通の病因論的特徴がある。そして、近年の免疫学研究の進歩は目を見張るものがあるが、未だその研究成果が有効な治療法の開発に結び付くケースは著しく少ない。その原因として、臨床医学の中で最先端の技術革新の成果を活かした検査機器や検査法の開発などで大きな成果を挙げている「診断学」という学問分野とは異なり、疾病の治療法を体系的に研究し実践する「治療学」という学問分野の研究が基礎医学と臨床医学の枠を超えてシステムティックに行われていないことや、「治療学」を推進する人材を組織的に育成する土壌がないことが挙げられる。

そこで、本学位プログラムでは、「治療学」を「疾患における治療の理論的背景を明らかにし、その知見に基づき新たな治療法を体系的に研究・実践する学問」と位置付け、千葉大学の強みを生かし、かつ社会的要請の非常に強い難治性の免疫関連疾患（アレルギー、自己免疫疾患、癌、心血管疾患など）に特化して、「免疫システムの調節」という視点からの治療薬の開発を含む「治療学」を推進するリーダーを養成する。具体的な人材養成の方策としては、医学と薬学が融合した大学院医学薬学府の博士課程に「治療学コース」を設置し、将来、ますます多様化する医療ニーズに指導者として対応でき、グローバル社会でリーダーとして活躍する医師・薬剤師、研究者や行政官の育成を行う。特に、①免疫学を中心とした知識習得とともに、免疫関連疾患の病因、治療法や治療技術を理解し、②医学と薬学の境界領域を含む幅広い知識と見識を有し、③患者の立場に立った個別治療の重要性を認識し、④「治療学」の概念を基盤にトランスレーショナルリサーチや臨床研究を統括指導する能力や、⑤卓越した英語力はもちろんのこと、リーダーとして必要な人間力（多角的視点、俯瞰力、総合的判断能力、統率力など）を兼ね備えた人材を育成する。

② 大学の改革構想

本学では、「つねに、より高きものをめざして」の理念のもと、世界を先導する大規模総合大学として、総合的で高度な個性ある教育プログラムと最善の環境を提供することにより、自由・自立の精神を堅持して、グローバルな視点から常に社会とかかわりあいを持ち、普遍的な教養(真善美)、専門的な知識・技術・技能および高い問題解決能力をそなえた人材の育成、ならびに現代的課題に応える創造的、独創的研究の展開によって、人類の平和と福祉ならびに自然との共生に貢献することを目標としている。

特に、大学院教育においては、学術の理論及び応用を教授、研究してその深奥を究め、もって、文化の進展に寄与する有為な人材を養成することを目的とし、着実かつ積極的に改革を進めている。

2. プログラムの進捗状況

平成25年度は、4月入学13名と10月入学1名の計14名の1期生が本プログラムの「治療学コース」に入り、「高い教養を涵養する特論」等の特論、治療学演習、治療学実習など本プログラムで独自に整備した教育カリキュラムの履修を開始した。

また、プログラムの広報活動と平成26年4月に入学する2期生の選抜試験を行った。これらの内容を以下に記す。

1. 実施運営体制の構築状況

- 1) 第2回リーディング千葉統括会議(産・学・官のリーダーから構成される8名の委員)を開催(平成26年3月3日)し、平成25年度の活動状況の報告を行い助言・指導を受けた。
- 2) 平成25年度には予定どおり四半期毎に4回(第3回～第6回)の運営会議を開催し、重要な案件を審議した。
特に、第6回運営会議(平成26年3月19日)においては、現地視察の指導を踏まえ、各種委員会の役割を明確にして充実化を図るため、本プログラムの運営会議要項を改正するとともに、委員会要項を策定した。
- 3) 7つの各種委員会(入試・教務委員会、産学官連携委員会、国際交流委員会、キャリアパス支援委員会、研究教育進捗評価・自己点検委員会、基礎・臨床統融合委員会、広報委員会)を設置し、通常業務を分担しプログラムを効率よく運営した。
- 4) 治療学演習の為にスタッフ整備とスペースの確保とともに、共通利用演習機器などを導入し教育研究環境の整備を行った。

2. 構想・計画の進捗状況

- 1) 高い教養を涵養する特論16回、創薬キャリアパス特論8回、治療学演習(ローテーション制で21ユニット)、治療学実習(理研でのサマープログラム共同開催、米国NIH短期留学、WHO本部での研修、ドイツシャリテ医科大学での大学院集中講義)等のプログラム独自の新規教育を行った。
- 2) プログラムの広報と情報発信のため、ホームページ(和文・英文)の運営、ニュースレターの発行、広報用ポスター作成などを行った。
平成25年6月8日に、キックオフ第1回国際シンポジウムを開催し、千葉大学のリーディングプログラムを学内外に紹介した。紹介した。
- 3) 本プログラムの各学生に3名の担任制度(指導教授、プログラム担当者指導教授、プログラム特任教員)を導入し、より総合的な指導を開始した。
また、学生に主体的な研究立案力や研究遂行力を修得させるべく「千葉大学博士課程リーディング特別研究費」制度を設け、学生自身による研究プロポーザルを審査し、研究費を支給し研究活動を支援した。
一方、「治療学コース」に所属する大学院生の経済的支援の観点から「千葉大学博士課程リーディング奨励金(月額20万円)」を支給し、学修研究に専念できる環境を整備した。
- 4) 第2期生(平成26年4月入学)の学生選抜について：①入試・教務委員会による学生選抜要項の策定(平成25年7月8日)と治療学リーディングプログラム運営会議での承認(平成25年7月17日)、②学生募集を行い、20名の最終受験者を確認(平成26年3月15日)、③平成26年度選抜試験実施(筆記試験、面接試験：平成26年3月18日)、④第6回運営会議(平成26年3月19日)にて14名の平成26年度合格者決定。千葉大独自の海外入試システム「先端医学薬学国際プログラム」による海外からの応募者1名も合格した。